

ほかにも、このような意見や感想などが集まりました。(一部抜粋)

- コロナウイルスの関係で各種イベントや趣味クラブ、旅行などにも影響が出ている。今後の活動をどう進めて行くか。
- 対面での会議や集会が出来ない中でパソコン等を使ったウェブやオンライン、リモートといった環境整備が必要ではないか。高齢の方でも使える様に育成や講習など含めて実施。
- 皆さんにお会いできないのが寂しいですが、書面でのきめ細やかさに改めて学ばせていただきました。
- 立ち上がったサービスが地域住民の皆様にとって、有益なものになるように、住民や関係機関への周知、利用しやすい仕組み作り、事業所を支える体制の整備について、問題を整理し、取り組んでいただければと思います。
- がんや老衰等のターミナル期で在宅看取りを希望される場合の地域へつなぐパターンを整理し開業医・ケアマネ・訪看さん等と連携を取りやすくする。
- まるごとのような、畠や花作りが出来る場所があるといいなと思います。デイサービスにつながらない認知症の人などの場所が欲しいです。



**高齢者の皆さんがあなたが住み慣れた地域で暮らし続けるため
地域包括ケアシステム の実現を目指しています！**

医療、介護、介護予防、日常生活のお手伝い（生活支援）などさまざまなサービスを切れ目なく提供し、支援が必要になっても安心して住み慣れた地域で暮らしていく仕組みのことです。燕市では2025年までに「地域包括ケアシステム」を作り上げるための取り組みを進めています。

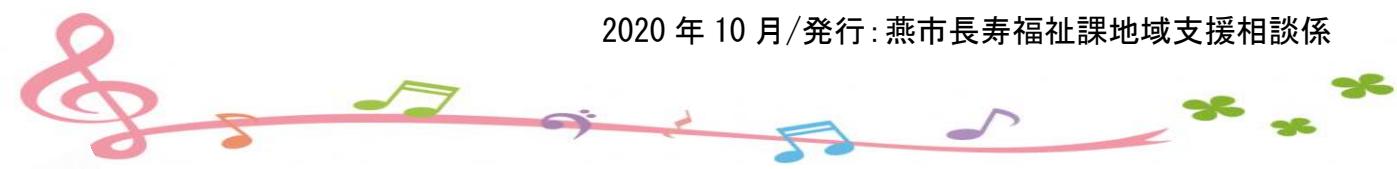


発行：燕市健康福祉部 長寿福祉課 地域支援相談係

0256・77・8157 fax0256・77・8138

地域ケア推進会議 かわら版

2020年10月/発行：燕市長寿福祉課地域支援相談係



地域ケア推進会議とは

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療、介護、介護予防その他の生活支援サービスが一体的に提供される地域包括ケアを効果的に推進するため、燕市地域ケア推進会議を設置し様々な検討を行っています。



新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、8月の『地域ケア推進会議』については、書面で回答を求める形で開催させていただきました。

各部会委員の皆さんにおかれましては、資料をもとに、127項目のご意見ご質問などが寄せられたことに感謝申し上げます。

今回、ご意見いただいた内容の概要版として『かわら版』としてまとめさせていただき、委員の皆さんにお届けさせていただきます。



地域ケア推進会議 今後の方向性

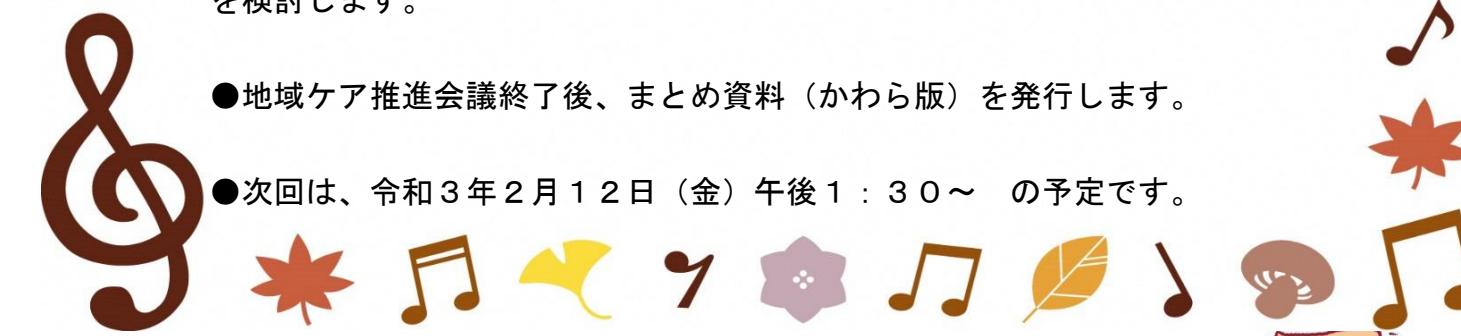
●地域ケア推進会議で検討するテーマは、事前に委員にお知らせしご意見をいただきます。会議当日までにご意見の集約・分析・検討を行い、当日は効率よく、かつ深い議論ができるよう努めます。

●各部会からの報告に関するご質問・ご意見は、会議終了後に書面等でいただくこととします。

●2つ以上の部会にわたるテーマは、部会担当職員等が集まって連携の方法を検討します。

●地域ケア推進会議終了後、まとめ資料（かわら版）を発行します。

●次回は、令和3年2月12日（金）午後1：30～の予定です。



会議で寄せられた意見の概要は中面に



総合事業部会

1. さまざまな『居場所』の推進について、最終的な目標はどこになりますか?
→まずは常設型の居場所を日常生活（包括支援センターを単位とする）圏域に1か所設置することを目標に、最終的には各まちづくり協議会エリアに1か所の設置を目指したい。
2. 通所型サービスBの内容が具体的によくわかりません。
→介護保険のサービスとは異なり、地域住民が主体となって活動拠点に週に1回以上集まって自主的、自発的に介護予防に資する活動を展開する通いの場のことをいいます。サービス内容は運動やレクリエーション、趣味活動などさまざまです。
3. 通いの場への参加はどういった手続きが必要なのか？活動の様子は地域でどのように周知されているのか。
→通いの場＝通所型サービスBとすれば、参加について手続きは必要ありません。（場所によっては居住地によって参加費が違う事もあり）活動の様子については、市の広報を活用したり、公共機関へのチラシ掲示、それぞれの場所においてチラシや通信を作成し自治会内に周知したりしています。



在宅医療・介護連携推進部会

1. たくさんの取組みメニューがなされている中で、地域への周知や何か事業の協力／参加する部分がありますか。例：出前講座をサロンで周知して開催を呼びかけるなど
→『在宅療養の出前講座』や『医療・福祉・介護フォーラム』など、広く多くの人を対象とするような事業は、チラシの配布や呼びかけなど、周知へのご協力をお願いします。
2. 看取りに関する取り組みがどのように進んでいるのか具体的に知りたい。
→部会で看取りに関する現状や課題を明確にした上で、それを基に必要な取り組みについて検討しています。燕市では自宅死よりも施設で亡くなる人の割合が高くなっている現状があります。看取りの場が医療機関や自宅以外の多岐にわたることから、看取りの体制づくりとして、看取りの場を増やすためにショートステイでの看取りの体制について、ワーキンググループを立ち上げて活動しています。
3. 個人のエンディングノートに連動する、地域のエンディングパス的なものに需要はあるのでしょうか?
→本人の思いをつなぐ仕組みについては、関係者間でどのように情報を共有していくか、部会でもご意見をいただいており、ツールや方法などについては必要性も含め、これから検討していきます。



認知症支援部会



1. 認知症当事者やその家族が集まる場の充実化を図る際に、総合事業部会の通いの場づくりと一緒にに行えないですか。
→認知症の有無にかかわらず誰もが集え、活動できる場所づくりに境界を引く必要はありません。新規立ち上げを行う際は運営側や利用者に認知症の理解を促し、ともに活動できるよう総合事業部会と取り組んでいきたいと思います。
しかし、認知症当事者やその家族が集うのには「同じ思いをしている人たちと話がしたい」とのニーズがあります。それに応えるため認知症支援部会は力を入れて検討していきたいと思います。
2. チームオレンジなど地域で支えることを進めていますが、担当者が考える地域がこうなったらしいなという思いや展望はありますか。
→具体的な事業内容等は部会で深めていますが、認知症の人への支援が広まって、誰であっても同じように手を差し伸べてくれる地域になってもらえるとよいと考えています。
3. 認知症支援セミナーがリモートで出来るとよいと思います。
→県外から講師にお越しいただくため、今年度のセミナーは中止といたしました。その代わりに認知症当事者やその家族と講師をつなぐ、本人ミーティングをリモートで行うことを検討しています。当事者や家族に周知していきますが、医療機関や介護保険事業所等からインターネット環境が整い各自アクセスができるれば参加可能です。

2層圏域支え合い活動への質問

1. 地域ケア会議との連携を意識して2層の活動となっていますか。包括支援センターとの連携は図られていますか。
→日頃からの連携を意識しています。地域ケア会議での課題に対し、地域住民として出来ることを2層圏域の支え合い活動推進会議（協議体）や、まち協エリアの地区支え合い活動推進委員会の場で深めたりもします。

地域ケア会議



支え合い活動推進会議

2. そなえノートや気づきノートは各圏域のオリジナルなのか？

内容はエンディングノートに近いのか医療情報救急キットに近いのか？

- 各圏域の課題への対応策の一つとして各圏域のオリジナルで作成しています。今後、全市で活用できる様であれば、内容を微修正し活用いただきたいと思っています。

そなえノートは、主な目的として、二人暮らしの世帯が一人になった時に困らないよう、家庭の大切なコトやモノの保管場所や情報を書き残しておけるよう作成しています。自身の意思を書き残しておくエンディングノートや緊急連絡先やかかりつけ医等を記載する救急キットと合わせて使えるよう、現在、住民参加による編集ワーキンググループにて作成しています。

